



栄のまちづくり

株式会社日建設計
執行役員名古屋代表 山本 秀樹

2010年1月に転勤で名古屋に来てから10年目を迎えました。現業では長く都市計画やまちづくりを専門として、名古屋市が策定した栄地区や名駅周辺地区のまちづくり構想等にも関わってきました。名古屋都心部では「名駅地区はリニア開業を控えて再開発が進む一方で、栄地区は街の機能更新が進まず、経済的にも地盤沈下が進む」という心配の声があります。名駅と栄を対比して、“Fastな街”と“Slowな街”と言われますが、広域高速交通網により人の出入りが多く活発で動きの速い名駅と、どこかゆっくりと時間の流れる栄。名古屋の街を“家”に例えると、名駅は名古屋やこの地域の「玄関」であり、栄はこの地域の人たちが寛げて豊かな時間を過ごせる「居間」とも例えられます。栄はその歴史の変遷や地理的特性等から名城・三の丸や大須と一体的に捉えるべきと考えられ、このエリアにこそ都心部の「名古屋らしさ」があるはずです。そして、やはり名駅と栄はこの街の両輪であって、両方が元気でないとダメなのだと思います。

弊社は1900年に大阪で創業しましたが、名古屋への出店は1939年と早く今年で80年を迎えます。久屋大通りに面した現在の場所に長くオフィスを構えているため、栄の住人としてもその活性化に大変強い思いがあります。「栄を元気にするために、自分達も何かできないか？」との考えから、栄の街を縮尺1/400で再現した都市模型を、名城・三の丸～栄～大須を一体的に俯瞰できるように作りました。そしてこの模型を囲んで、栄の様々な関係者が街の将来像やまちづくりについて語り合えるサロン「Sakae-BA400」を開設しました。この名前には「栄の将来・まちづくりを語り合う場(BA)」という意味が込められています。サロンでは2017年9月の開設以来、デベロッパーや行政以外にも建築・都市計画系の学識経験者による利用や、大学のゼミの開催、さらには一般公開も毎月開催しており、これまで延べ約2,000人の方々に来場いただき、栄に対する熱い思いを語り合う場となっています。

そんな中、いよいよ栄地区でも再開発が動き始めています。栄の背骨である久屋大通公園では「久屋大通公園(北エリア・テレビ塔エリア)再整備事業」、「名古屋テレビ塔リニューアル事業」、「栄バスターミナル(噴水南のりば)跡地暫定活用事業」が始まり、2020年の東京オリンピックまでに開業予定です。さらには久屋大通沿道のビルの再開発・建替え計画も複数動き始めており、今後の栄の街の復興が期待されています。